

令和5年度第3回浦安市行政改革推進委員会 会議録

- 日 時／令和5年12月21日(木) 15:00 ～ 16:00
- 場 所／市役所4階 S4会議室  
※一部委員は、リモートで出席
- 出席者／池田委員、深谷委員(リモート)、李委員(リモート)、平野委員、石井委員、岩田委員、染谷委員、佐藤委員
- 事務局／野崎総務部長、山崎総務部次長、土久総務課長、小川行政改革推進室長、高津副主査、腰塚主任主事
- 議 題／(1) 事務事業評価等の評価結果に基づく改善方策の推進について  
②コストの改善、有効性の改善等に関する改善の方向性について  
(2) 事務事業評価等の評価結果に基づく改善方策の推進について(諮問)に対する答申について  
(3) その他

1 開会

事務局より、委員8名中8名の出席により過半数を超えることから、本会議が成立する旨が確認された。

2 議題

議題に入る前に、前回委員会から日数が経過していることを踏まえ、事務局より本委員会に対する諮問が説明された。

委員長より、前回委員会の審議された「諮問事項(1) 廃止・抜本的な改善等に関する具体的な改善方策について」について、委員会の総意として、「市が考えた改善策(案)のとおりで良い」と決定したこと、それに関して附帯意見はなく、委員からの意見は参考意見として取り扱うことすることが確認された。あわせて本日は、「諮問事項(2) コストの改善、有効性の改善等に関する改善の方向性について」の審議となることを確認された。

議題(1)事務事業評価等の評価結果に基づく改善方策の推進について(審議)

1 「コストの改善」の改善の方向性について

事務局： 「コストの改善」の改善の方向性は、「1) 事業の見直しにより経費の削減」、「2) 1成果当たりの経費(単位コスト)の改善」、「3) 委託費の削減」、「4) 職員人件費の削減」である。

委員からの事前回答のとりまとめ結果は、委員8名のうち「1 改善の方向性のとおりで良い」5名、「2 概ね改善の方向性のとおりで良い」3名、「3 その他」0名。

委員からの事前意見は、「各事業において、どうしてコスト削減が必要か、なぜその取り組みによりコストが削減できるか、といった視点（説明の記述）があってもよいか。削減することは手段であり、やはり目的ありきか（もちろん、重複・冗長にならない程度に）」、「コスト削減のためデジタルの活用を推進願います。」、「改善の方向性の考え方でよいと思います。誰が見てもわかる客観的指標であるコスト削減、単位コスト改善は有用だと思いますが、結果としての製品、市民サービスの品質や事業成果の維持・向上にも留意してください。費用対効果でということになるのだと思いますが、より高い効果・有効性・負荷価値・差別化をするために、それなりの対価コストを選択するという判断・覚悟があってもよいと思います。賛同は必要でしょうか。」であった。

会 長： 事務局の説明に対して委員からの意見を願う

委 員： 職員人件費の削減については、デジタル活用により効率化に取り組むことで、より良い行政を進め、職員の勤務環境の整備に繋げてもらいたい。

会 長： その他の意見がないので、審議結果をとりまとめる。事前回答で「1 改善の方向性のとおりで良い」が5名と多数だったので、委員会の総意として「1 改善方策（案）のとおりで良い」として良いか。また、委員からの意見は参考意見としての取扱で良いか。

各委員： （異議なし）

会 長： 委員会の総意として「1 改善の方向性のとおりで良い」とし、委員の意見は全て参考意見として取り扱う。

## 2 「有効性の改善」の改善の方向性について

事務局： 「有効性の改善」の改善の方向性は、「1）事業内容の見直し」、「2）事業対象の見直し」である。

委員からの事前回答のとりまとめ結果は、委員8名のうち「1 改善の方向性のとおりで良い」5名、「2 概ね改善の方向性のとおりで良い」3名、「3 その他」0名。

委員からの事前意見は、「「有効性」については、各事業で達成しようとする目的に照らしてどの程度効果があったのか、についての視点があった方が、有効性の定義的にはあっているように思われる。効率性の追求や見直し・コストカットとは異なるのではないか。」、「有効性の改善を進めていただき、将来的に改善がない場合は、事業の必要性の再検証を行うなど柔軟な対応をお願いいたします。」、「実施する事業の事業効果の向上に取り組み努力をす

ることはよいことだと思います。」であった。

会 長： 事務局の説明に対して委員からの意見を願います。

委 員： 有効性の改善は難しいと思う。改善に取り組んだ上で難しいと判断した場合には、PDC Aサイクルを回して柔軟に新たな判断を行うことも必要と考える。

委 員： 有効性とは目的に照らしてどこまで効果が上がったのかであり、単純なコストカットとは異なるので、効率性とは明確に分けて考えた方が良い。

事務局： 事務事業評価の実施に当たっては、ご意見のとおりコストとは全く別の視点で評価した。各事業の上位施策のどの目的・目標にどの様な効果が上がったのかを4段階で評価した。その際、評価の上振れを抑制するために分布規制を導入した上で、本当に成果が上がったのか・いないのかを精査した。その結果、今回、有効性の改善が必要と判断されたのが76事業になった。

会 長： その他の意見がないので、審議結果をとりまとめる。事前回答で「1 改善の方向性のとおりで良い」が5名と多数だったので、委員会の総意として「1 改善方策（案）のとおりで良い」として良いか。また、委員からの意見は参考意見としての取扱で良いか。

各委員： （異議なし）

会 長： 委員会の総意として「1 改善の方向性のとおりで良い」とし、委員の意見は全て参考意見として取り扱う。

### 3 「人件費事業の改善」の改善の方向性について

事務局： 人件費事業の改善策を実施に当たり、業務委託やICTの活用など新たな予算措置が必要な場合は、今後、費用対効果の検証を行った上、改善策の実施の可否を検討する必要がある。

「人件費事業の改善」の方向性は、「1）業務委託の活用」、「2）ICTの活用」、「3）業務の効率化」、「4）官民連携」、「5）会計年度任用職員の活用」、「6）成果の向上」である。

委員からの事前回答のとりまとめ結果は、委員8名のうち「1 改善の方向性のとおりで良い」5名、「2 概ね改善の方向性のとおりで良い」3名、「3 その他」0名。

委員からの事前意見は、「ICTの活用の重要性は増加していくことは確実です。そのため、ICTをより有効活用するための役所内での人材育成が重要だと思います。」「複数の政策・施策・事業にまたがる連携や整理については、おそらく様々な（それを阻害する）検討事項が生じるのではないかと。改善を志向するのであれば、いかにこれが難しいのかについての視点があってもよさそう。」「人件費の削減については、行政サービスとのバランスで進めて

いただき、逆に ICT の積極的な活用により、業務の効率化を図っていただきたい。」「前回の委員会に提出された資料から、担当者のご努力で、改善に関する検討が十分になされたと判断します。したがって、「2」を選択しました。「1」にしなかった理由は、回答の幅を持たせたことで、ほぼ「1」と同様です」であった。

会 長： 事務局の説明に対して委員からの意見をお願いする

委 員： 会計年度任用職員の活用に関して、市OB職員の活用状況を教えてもらいたい。

事務局： 現状は、来年度から段階的に定年延長が始まるが、定年が 65 歳となるまでの間はこれまでどおり 65 歳まで再任用職員として活用していく。65 歳以降は、これまで 2 名が会計年度任用職員として活躍している。

委 員： 人件費事業の改善に関しては、改善策に伴う新たな事業費コストや調整コストの発生を含めて検討する必要性に留意してもらいたい。

会 長： 改善策の実施によって、サービスの質が低下しないことが必要である。その他の意見がないので、審議結果をとりまとめる。事前回答で「1 改善の方向性のとおりで良い」が 5 名と多数だったので、委員会の総意として「1 改善方策（案）のとおりで良い」として良いか。また、委員からの意見は参考意見としての取扱で良いか。

各委員： （異議なし）

会 長： 委員会の総意として「1 改善の方向性のとおりで良い」とし、委員の意見は全て参考意見として取り扱う。

議題（2）事務事業評価等の評価結果に基づく改善方策の推進について（諮問）に対する答申について

会 長： 諮問事項（1）は前回委員会で、諮問事項（2）は本日の議題（1）で、いずれも市が考える改善方策やその方向性のとおりで良いで、委員会の総意を確認した。異議はないか。

委 員： （異議なし）

会 長： では、その様に答申する。

次に、答申の附帯意見について確認する。附帯意見の確認は、諮問事項（1）（2）のそれぞれについての附帯意見と、今後の改善方策の推進全般に対する附帯意見に分けて確認する。

諮問事項（1）（2）のそれぞれについての附帯意見について、前回委員会や本日の議題（1）で、委員からの意見は全て参考意見とし、附帯意見はなしとの委員会の総意を確認した。異議はないか。

委 員： （異議なし）

会 長： では、諮問事項（１）（２）のそれぞれに対する附帯意見はなしとする。  
次に、今後の改善方策の推進全般に対する附帯意見について確認する。事前に委員から回答しているので、その内容を事務局から説明する。

事務局： 委員からの事前意見は、「（１）にも連動するが、何のために効率性（いわゆるコストパフォーマンス）や有効性（目的の達成度）の改善を求めるのかは、全体としても、各事業としても、あらためて確認しておいてもよいのではないか。」「有効性の改善について。成人歯科健診に加えて、がん検診（推進など）にも焦点を当てる必要があると考えられます。現代ではがんが最も死亡率の高い原因の一つであります。早期発見と治療は、がん患者が多い現代社会において極めて重要です。これによって医療費などの負担（例：財政負担）も減らせます。」「第３回委員会についても第２回委員会同様、全委員と活発な意見交換が出来ればと考えております。」「時期的に増減のある事業については積極的に派遣、臨時の雇用で対応することは良いことである。この計画を見た範囲内では、特に問題はないと思われるが、個別の対応によっては様々な問題が生じることも想定されるため、これにとらわれず、柔軟に考えて行きたい。」「今現在のところ、特別ありません。第３回委員会におき、気づいたことがあります次第、発言させていただきます。よろしく願いいたします。」「成長から成熟都市、急速な高齢化、市民の多くが暮らす共同住宅の老朽化・建替え問題、首都直下地震や千葉北西部地震などの自然災害・その他人為的災害への対応など、様々な課題があることと思います。時代に即した課題解決の舵取り役として、行政の役割はとても重要だと思われまます。そのような中で、浦安市では限られる資源（人材・事業取組・施設や設備等）を最大限活用した持続発展可能な行政改革となるように期待しています。」であった。

会 長： せっかくの機会なので、各委員から意見を願います。

委 員： 全体の方向性は、市の考えのとおりで良い。様々な削減を行うのであれば、客観的な根拠が必要になってくるであろう。様々な角度から検討するに当たって、効率性・有効性・人件費削減などその難しさを含めて整理することが大事である。

委 員： 例えばがん検診の受診率を向上させるために、受診率の低い年齢などに集中して受診促進することなど、事業の効率性・有効性の向上に取り組んでもらいたい。

委 員： 浦安市が他の自治体と比較して財政等の面でゆとりがあるといっても、無駄に使って良いわけではないので、今回の取組はありがたい。浮いた財源を何に使うかも重要である。先進国はがんが減っているが、日本は増えている。予防も考えないといけない。

委 員： 全体として改善の内容・方向性は賛同する。その上で、民間はマイナスなら

すぐにやめないといけない。スピードを早めて改善の取組を進めることを期待する。

委員： これからも様々な課題が発生する中、行政が果たすべき役割は増えるので、ICT、機械にできることは機械にしてもらおう。貴重な職員人材を有効に活用できるように取り組んでもらいたい。

委員： 全体の方向性は賛成である。一度走り出すと止めにくい状況があるが、改善策を進めていく中で何かあれば一度立ち止まり、再検討することも念頭に置いて進めてもらいたい。

委員： 最小のコストで最大の効果を生み出すことは、難しいと思うが期待する。先の意見と同様に、改善策の実施に伴い発生するコストも含めて全体として進めてもらいたい。将来に向けて様々な環境の変化が発生するので、浦安市ならではの持続可能な行政改革を進めてもらいたい。

会長： 各委員の意見のうち、委員会の総意として附帯意見とした方が良いものがあるか。

委員： (なし)

会長： 私から附帯意見を提案する。

(附帯意見案の配布)

会長： 提案理由は、改善方策を着実に進めていきたいということと、市民に広く周知するために公表に努めていきたいということの2点である。  
附帯意見案に対する意見をお願いする。

委員： (意見なし)

会長： 附帯意見の正式な文言は、会長に一任いただき、後日、事務局と調整し決定する。附帯意見以外の意見は参考意見とする。

委員： (異議なし)

会長： 答申を再確認する。答申は諮問事項に対し、「市の改善方策(案)、改善の方向性(案)のとおりで良い」。附帯意見は、先ほど確認した内容を付す。附帯意見を含め正式な答申書案を事務局が作成した上で、後日、委員に確認していただく。

議題(3) その他について

事務局： 今後のスケジュールについて。年度末頃に、進捗状況を市ホームページで公表する予定。

今年度の会議は、本日で終了となる。

3 閉会

会 長： 以上で第3回浦安市行政改革推進委員会を閉会する。

(16時00分終了)